



JSABs
Japan Society of Applied Business Studies

日本ビジネス実務学会

会報 No.64

2016年4月1日発行

発行/日本ビジネス実務学会広報委員会

事務局 / 〒004-8602 札幌市清田区清田4条1丁目4-1 札幌国際大学内

URL : <http://jsabs.hs.plala.or.jp> / e-mail: business.jitumu@gmail.com

地域連携の基盤教育となるビジネス実務教育

会長 橋 明美 (札幌国際大学短期大学部)



地方創生のもと、地域が求める人材を育成する役割が焦点化され、大学では教育カリキュラムの改革が進められています。特に、地域との連携、産学連携による取組をカリキュラムと連動することで、大学で学ぶことが社会にどう繋がるのかが把握される機会ともなり、文系の大学における社会との接続問題を解決する糸口となることは間違いありません。

そこで、ここにビジネス実務がどう関係して行くのかという点が課題となります。ビジネス実務教育に重要なことは、「学生が主体的に取り組む総合的な実務体験学習」であるという確認が学会名称変更時になされていました。つまり、本学会での研究は、能動的学習をすでに対象として行ってきており、その蓄積があるということが明確になります。長く学会に所属されている方々にとって自然体で指導ができる分野であるということも明らかでしょう。

特に、地域連携、産学連携を進めるにあたり、必要な教育技法としてPBLを始めとしたチームで課題に取り組む能動的学習が挙げられますが、本学会では前述のとおり当然のことながら、それらの研究成果はすでに多く蓄積されており、これが学会の強みとして認められます。つまり、ビジネス実務研究において取り組まれてきたことは、地域連携、産学連携を進めるための基盤となる教育に繋がるということでもあり、この点を押さえておきたいと思います。

本学会の独自性でもある「実践の知」を活かしながら、今後、研究をどのような方向性を持って進めて行くべきでしょうか。現在、研究領域ワーキンググループによって、ビジネス実務研究対象領域の再構築を目的とした議論をしているところです。ここで地域連携、産学連携におけるビジネス実務教育の視点は逸らすことはできない課題となるでしょう。

また、ブロガーによる投稿が政府の動きを変える時代です。SNSがビジネスに影響を与えることもあり、その活用や倫理上の問題などは急務となり、それに関する研究も出てきています。時代の即した研究対象領域の提案、検討を進めて参ります。

第35回全国大会では、新たな試みとしてポスター発表を導入しましたが、応募者数が15件、口頭発表21件と合わせて36件の発表数となり、活気を呈して参りました。新しい風が吹いている本学会で、ビジネス実務とは何か、という原点に立ち戻りながら、これまでの学会の研究蓄積を活かし、地域に貢献できる人材育成研究を継続して参りたいと思います。

Contents

会長挨拶	1
委員会活動報告	2
ブロック研究会活動報告	
北海道、関東・東北ブロック	3
中部、近畿ブロック	4
中国・四国、九州・沖縄ブロック	5
ブロック研究会研究発表一覧	6~7
ブロック研究会運営委員一覧	7
事務局からのお知らせ・新入会員・第35回全国大会のご案内	8